

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インド、3ヶ月ぶりに生産拡大 (Asia Weekly (8/8~8/12))

～韓国は金融市場の混乱を懸念し、政策金利を据え置く～

発表日: 2011年8月13日(土)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

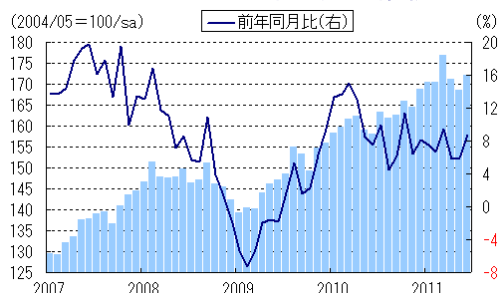
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/8 (月)	(台湾) 7月輸出 (前年比)	+17.6%	+8.8%	+10.8%
	7月輸入 (前年比)	+14.0%	+11.5%	+12.5%
8/9 (火)	(中国) 7月消費者物価 (前年比)	+6.5%	+6.4%	+6.4%
	7月鉱工業生産 (前年比)	+14.0%	+14.6%	+15.1%
	7月小売売上高 (前年比)	+17.2%	+17.7%	+17.7%
	1-7月都市部固定資産投資 (前年比)	+25.4%	+25.5%	+25.6%
	(インドネシア) 金融政策委員会 (政策金利)	6.75%	6.75%	6.75%
8/10 (水)	(韓国) 7月失業率 (季調済)	3.3%	3.4%	3.3%
	(シンガポール) 4-6月期実質GDP (前年比/改訂値)	+0.9%	+0.4%	+0.5%
	(前期比年率/季調値/改訂値)	▲6.5%	▲7.7%	▲7.8%
	(中国) 7月輸出 (前年比)	+20.4%	+17.0%	+17.9%
	7月輸入 (前年比)	+22.9%	+22.0%	+19.3%
	(マレーシア) 6月鉱工業生産 (前年比)	+1.0%	▲0.8%	▲5.6%
8/11 (木)	(韓国) 金融政策委員会 (政策金利)	3.25%	3.25%	3.25%
	(豪州) 7月失業率 (季調値)	5.1%	4.9%	4.9%
8/12 (金)	(インド) 6月鉱工業生産 (前年比)	+8.8%	+5.5%	+5.9%
	(香港) 4-6月期実質GDP (前年比)	+5.1%	+6.0%	+7.5%
	(前期比/季調値)	▲0.5%	+0.4%	+3.1%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド] ～内需は頭打ちしているが、外需の底堅さを背景に生産は3ヶ月ぶりに拡大～

12日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+8.8%となり、前月(同+5.9%)から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値ベースの前月比も3ヶ月ぶりに増加しており、在庫調整の進展を反映して資本財を中心とする生産拡大が全体を押し上げた。物価や金利の上昇により、同国の景気をけん引してきた内需は足下で頭打ちしており、生産に下押し圧力が掛かってきたものの、アジアや中東・アフリカ地域の旺盛な需要により輸出は底堅く推移しており、生産を下支えしている。インフレ率は依然前年同月比二桁%近傍で高止まりしており、さらなる金融引き締めも予想されることから内需に下押しリスクは残る。また、世界経済の不透明感による外需鈍化も懸念されるものの、年度末にかけてインフレ率の鈍化が見込まれ、先行きの生産は緩やかに拡大しよう。

図1 IN 鉱工業生産の推移



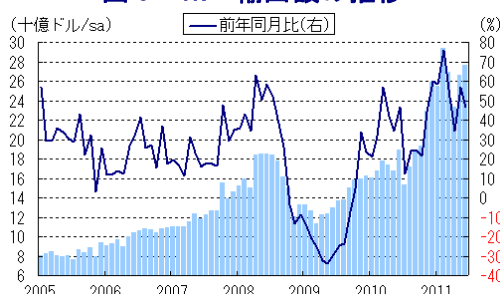
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 四輪車販売台数の推移



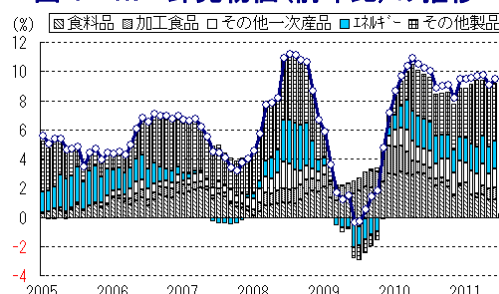
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 IN 輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 IN 卸売物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

〔韓国〕 ～雇用の底堅さは確認されたが、足下の金融不安の影響を懸念して政策金利を据え置き～

10日に発表された7月の失業率(季調済)は3.3%となり、前月から横這いであった。雇用者数は前月比▲3.6万人と6ヶ月ぶりに減少に転じたものの、失業者数は同▲1.6万人と4ヶ月連続で減少しており、雇用・所得環境は底堅い。世界経済の不透明感が高まっているものの、7月の輸出額は過去最高を更新するなど外需は堅調に推移。生産拡大の持続に伴い先行きの雇用も緩やかに改善しよう。

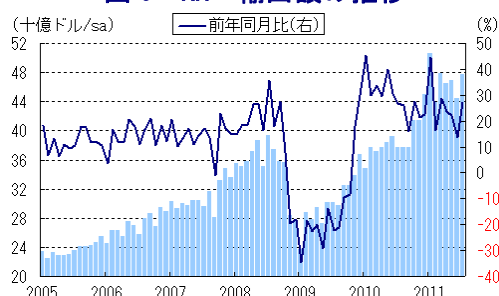
11日、韓国銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を2回連続で3.25%に据え置いた。当局は世界経済について、欧米の財政問題や足下の金融市場の混乱によって不透明感が高まっていることを懸念。そして、国内経済については堅調な雇用・所得環境を背景に拡大しているものの、外的要因により下押しされる可能性を指摘している。一方、7月の消費者物価は前年同月比+4.7%と7ヶ月連続で金融当局の定めるインフレ目標(2～4%)を上回り、コア物価も同+3.8%に加速するなどインフレ懸念は高まっている。また、7月の不動産価格は前年同月比+5.9%、6大都市圏では前年比二桁%となるなど不動産バブル懸念も熾っている。世界的な金融市場の混乱により、同国においても株式と通貨は大幅に下落し、長期金利も大幅に低下するなど大きく混乱している。今後は市場安定を図るべく政策金利を据え置いたものの、物価上昇リスクは払拭されていないため、先行きも利上げ実施の可能性はあろう。

図5 KR 雇用環境の推移



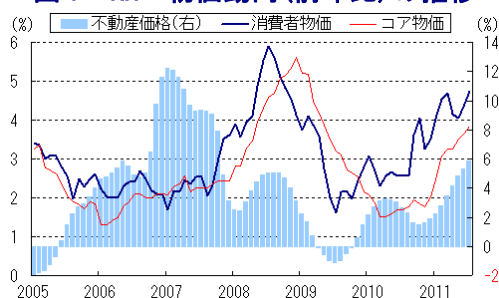
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 KR 輸出額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 7 KR 物価動向(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 8 KR 政策金利の推移



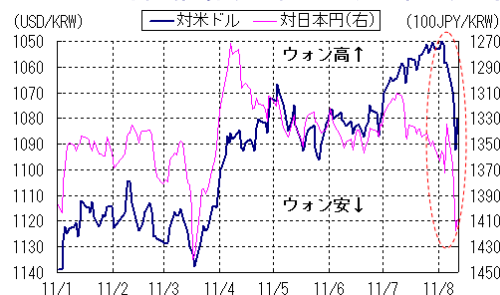
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 9 KR 株式相場(KOSPI)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 10 KR 為替相場(対米ドル、日本円)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 11 KR 長期金利(10年債利回り)の推移

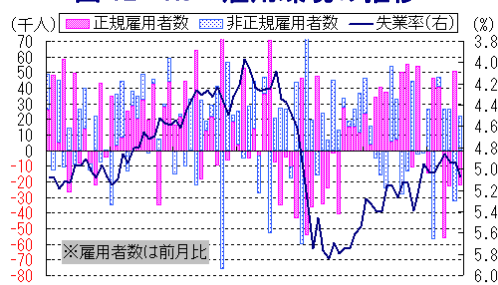


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【豪州】 ～物価や金利の上昇、豪ドル高による景況感悪化を反映して雇用到下押し圧力が掛かる～

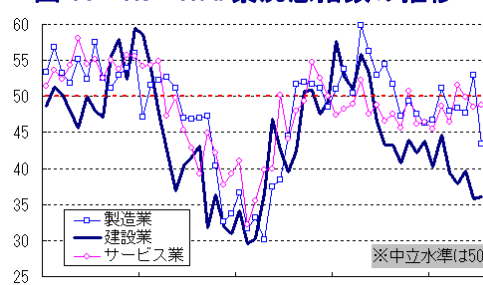
11日に発表された7月の失業率(季調済)は5.1%となり、前月(4.9%)から0.2p悪化した。雇用者数は前月比▲100人とわずかな減少に留まったものの、うち正規雇用者は同▲2.2万人と前月(同+5.1万人)から減少に転じた一方、非正規雇用者は同+2.2万人と前月(同▲3.3万人)から増加しており、正規雇用者を中心に雇用環境は悪化している。これは物価や金利の上昇による建設業への悪影響や、豪ドル高などによる製造業の景況感悪化なども影響した。なお、金融当局は今年5月に四半期ごとの「金融政策報告」を発表し、世界経済の下振れリスクを理由に今年通年の経済成長率見通しを従来の前年比+4.25%から、同+3.25%に下方修正している。景気減速に伴い、先行きの雇用環境には下押し圧力が高まろう。

図 12 AU 雇用環境の推移



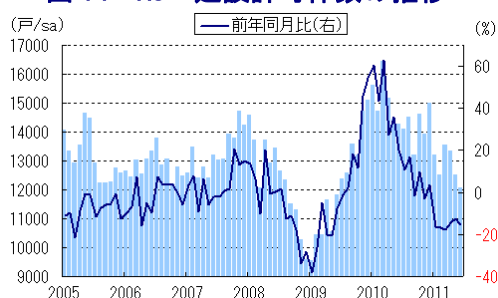
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 13 AU AiG 景況感指数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 14 AU 建設許可件数の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 15 AU 為替相場(対米ドル、日本円)の推移

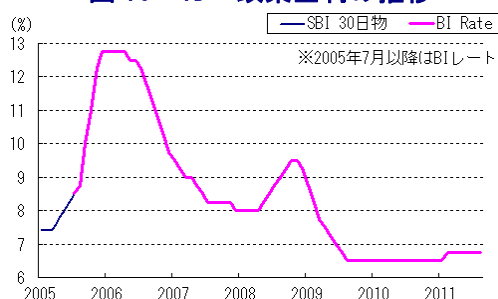


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【インドネシア】 ～景気は堅調も、インフレ率の鈍化を理由に6回連続で政策金利を据え置き～

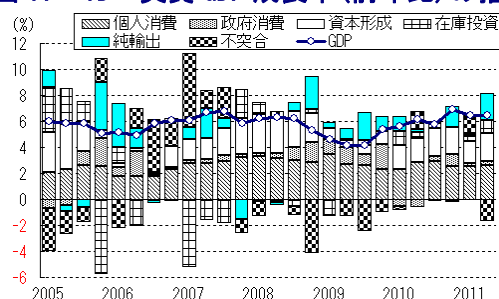
9日、インドネシア銀行は定例の金融政策委員会を開催し、政策金利であるB I レートを6回連続で6.75%に据え置いた。4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.5%と内需主導で堅調に拡大しているものの、7月の消費者物価は前年同月比+4.61%と伸びは鈍化しており、当局のインフレ目標（今年は4～6%）は達成可能と判断している。さらに、海外資金の流入によるルピア高の進展も輸入物価を通じて物価上昇圧力を緩和しており、当局は実質的なルピア高誘導により物価抑制を図る姿勢を示している。先行きについて、ラマダン明けなどに伴う個人消費拡大は物価上昇圧力となろうが、当面は金利を現行水準で据え置こう。ただし、7月のコア物価は前年同月比+4.55%と徐々に高まっており、過剰流動性懸念による加速も起こり得るため、将来的に再利上げに踏み切る可能性は残されている。

図 16 ID 政策金利の推移



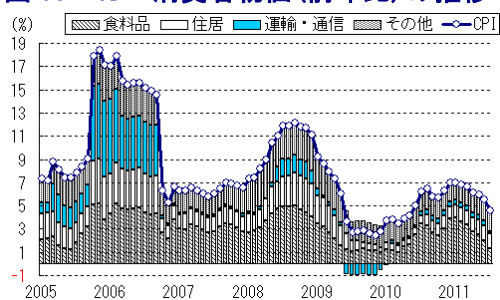
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 17 ID 実質 GDP 成長率(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 18 ID 消費者物価(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 19 ID 為替相場(対米ドル)の推移

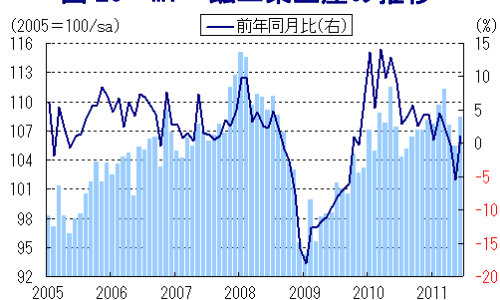


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～世界経済の不透明感は煽るものの、在庫調整の進展などを背景に生産は拡大～

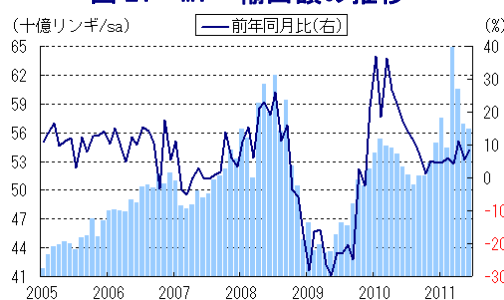
10日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+1.0%となり、3ヶ月ぶりにプラスに転じた。当研究所が試算した季節調整値ベースの前月比も3ヶ月ぶりに増加に転じており、特に前月に大きく落ち込んだ鉱業部門は大幅に増加しており、在庫調整の進展も生産拡大に繋がった。6月の輸出額は世界経済の減速を反映して3ヶ月連続で前月比マイナスとなったものの、減少幅は大きく縮小しており底打ちの兆候も出ている。世界経済の先行きは不透明感が高まっているものの、今後は天然ガス(LNG)需要の増加が見込まれることから、生産は緩やかに拡大しよう。

図 20 MY 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 21 MY 輸出額の推移

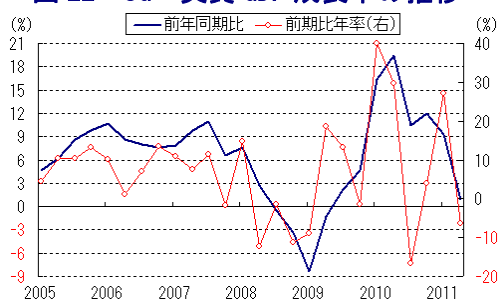


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～内需は堅調であったが、世界経済の減速による外需悪化でマイナス成長～

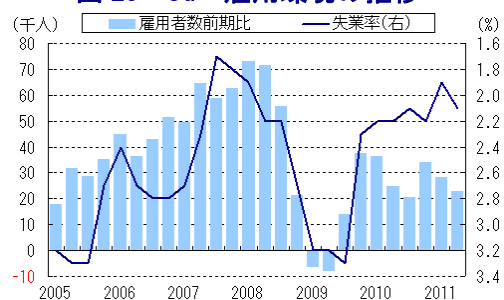
10日に発表された4-6月期の実質GDP成長率(改訂値)は前年同期比+0.9%となり、速報値(同+0.5%)から+0.4p上方修正された。前期比年率も▲6.5%とマイナス成長ではあるが、速報値(同▲7.8%)から+1.3p上方修正されている。雇用・所得環境の改善や資金流通量の増加により個人消費は増加しており、旺盛な対内直接投資などにより資本投資も拡大するなど内需は堅調に推移したが、世界経済の減速懸念を背景に輸出は頭打ちしており、外需の低迷が景気を下押ししている。同国は経済の外需依存度が極めて高いため、先行きも内需の堅調は期待出来るものの、世界経済の減速を背景に景気の拡大ペースは緩やかなものに留まろう。

図 22 SG 実質 GDP 成長率の推移



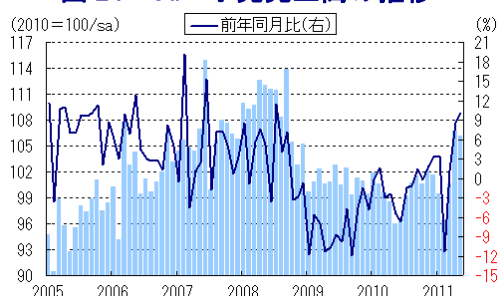
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 23 SG 雇用環境の推移



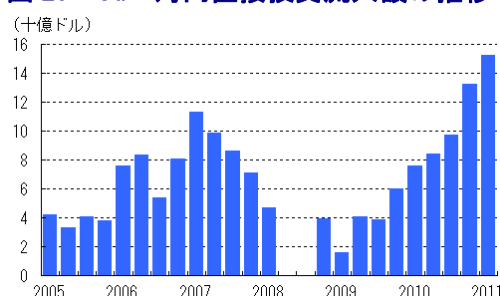
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 24 SG 小売売上高の推移



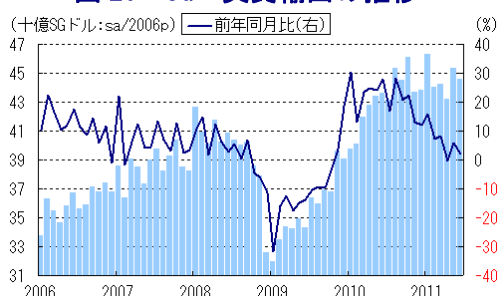
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 25 SG 対内直接投資流入額の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 26 SG 実質輸出の推移

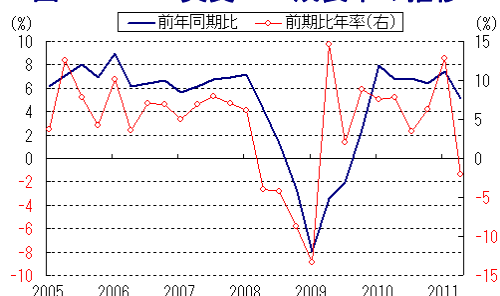


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

〔香港〕 ～雇用改善で内需は堅調も、世界経済の減速で輸出が低迷して9四半期ぶりのマイナス成長～

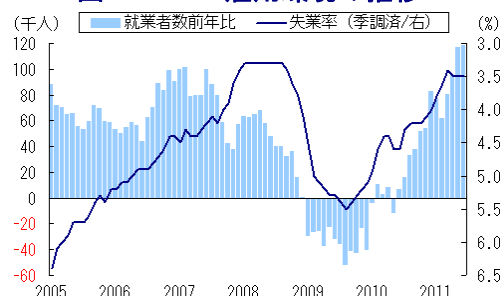
12日に発表された4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+5.1%となり、前期(同+7.5%)から伸びが鈍化した。前期比も▲0.5%と9四半期ぶりのマイナス成長となり、世界経済の減速による悪影響が出た。雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は拡大が続くなど内需は底堅かったものの、中国や世界経済の減速で輸出は減少しており、外需の低迷が景気の重石となった。先行きについては、年末にかけて中国経済は底堅く推移すると見込まれ、世界経済には不透明感が残るものの、輸出の緩やかな増加により景気は緩やかに拡大しよう。

図 27 HK 実質 GDP 成長率の推移



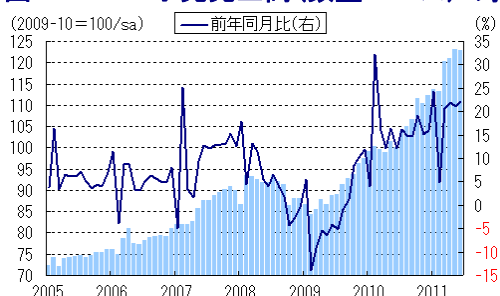
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 28 HK 雇用環境の推移



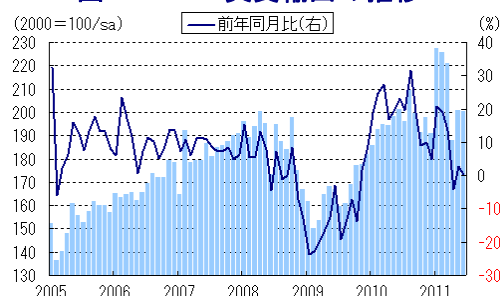
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 29 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図 30 HK 実質輸出の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上